

谷川岳：一ノ倉沢 烏帽子岩 南稜

- ◆日程 2018年9月23日(日) (前夜泊)
- ◆メンバー L：須田, 前田, 岡村
- ◆天候 晴れ

前田さんの車で谷川岳ロープウェイ駐車場に前泊。朝2時半起床, 3時出発。ヘッテンの光を頼りに林道に行く。寒くはない。星がきれい。一ノ倉沢出合からヘルメットをかぶって、川原を歩き、ちょっとのブッシュを行って、再び川原に降り立つ。左手に一ノ沢出合を通過。この辺がヒョングリの滝の下というところで、左岸を残置ロープで上がって、すぐ右岸に移る。険しい樹林帯の中、草付をつかんで這い上がった。暗くてわからないが、ここはヒョングリの滝を高巻いている。崖の上に出た。残置ロープが下がっている。先行パーティは懸垂下降の用意をしていたが、残置ロープでクライムダウンした。その結果、われわれが先頭となった。

テールリッジまで、湿っているとよく滑る岩質だ。後でラバーソールの沢靴をアプローチシューズにしている人を見かけ、「なるほど」と思った。いつか試したい。テールリッジ末端は下から見るとこんもりした樹林で、そこまで上がると衝立岩が正面に来る。

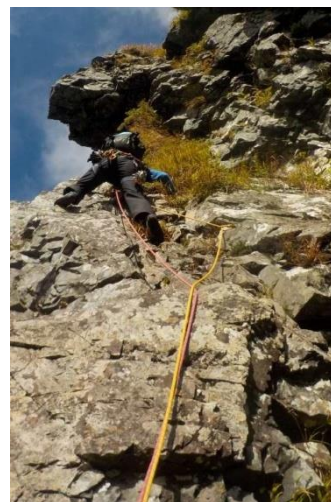
テールリッジは、濡れて滑るし、険しく、息を切らせ登った。中央稜の取付きに出る。そこから烏帽子スラブをトラバースして、南稜テラスにようやくついた。先行者なしで、1番乗りだった。靴とハーネスの用意をしていると、4パーティくらいが続々と到着した。登る岩を下から見上げると、アドレナリンが出て、弱気は吹き飛んだ。

1ピッチ目。リードの須田さんが、ゆっくり登っているように見えたのは、広沢寺よりもスケールが大きいからだろうか。須田さんはチムニー(写真1枚目)の入口で、どこから入るか迷っているようだった。チムニーに入ると姿が見えなくなり、前田さんと「どうなっているんだろう?」と話しているうちに、「ビレイ解除」の声がかり、終了点についたことが分かった。

1ピッチ目をセカンドで登る。出だしはホールドもあるし、難しくない。「おー、楽しいなあ」と思った。下から見るより斜度がある。テラスから一挙手一投足が見られている感じで、ときどき、「あそこはこっちに行った方がいいんだよね」なんて声もした。チムニーの入口に着くと、やはりどう入っていいか悩む。右側を見に行ったが、うまく行けそうにない。結局、チムニーの正面に入って手を伸ばして上のホールドをとって、足を突っ張って体を持ち上げると、背中が岩にあたって安定し、「あれ、自然にチムニーの態勢だ」と思って、そこからじわじわ上がっていった。

2ピッチ目は何ということもなかった。少し余裕が出て、周りの景色に目が行った。一步上がるごとに視線がグイと上がる感じがして、その高度感が脳幹を直撃する。足の裏がジワジワするのは、脳から「足の裏に意識を集中せよ」と指令が出ているせいだ。

3ピッチ目は、クマ笹の緩斜面で、ザイルを使わずに3人で歩いて行った。ザイルを使っているパーティもいた。帰りの車で、比較的安全なところでビレイをしない等、「そういうメリハリも大事だ」と須田さんに教わる。「それはそうだけど、その判断が難しいな」と思った。



4ピッチ目。真正面はハングになっていて(写真2枚目)、須田さんはそれを左から巻きこむように進み、姿が見えなくなった。無線で指示が来て登り始める。ロープを辿って行ったら、難なく登れた。しかし、須田さんがした、ルートファインディングは難しいと思う。マーキングがあるわけではないし、地形図を読めればわかるわけでもない。須田さんは、「支点があるかどうか、行ってみて難しすぎないかどうか」という。「なるほど」と思うが、やってみろ、と言われたら困る。



5ピッチ目。テラスの先に大岩があって、左側にも残置ロープがあったが、右を巻くように上がる。するとすぐに馬ノ背リッジ(写真3枚目)に出た。ここはホールド豊富で階段状の部分も多かったが、高度感は随一だった。

6ピッチ目。いよいよ最終ピッチ。ピッチの最後に今回のルートで最も立っているところに出る。水が滴るところは滑って、特に難しい。こことチムニー(1ピッチ目)は、「行けるかな。行くしかないな」と覚悟を決める必要があったが、覚悟を決めれば、どうにかなった。前田さんは「命、懸けました」と大げさに言って、笑った。

6ピッチ目終了点から懸垂支点はすぐで15mほど。そこで大休止。行動食をパクつく。後続の2人パーティは国境稜線まで上がるというので、後ろから急かされることもなかった。見下ろすと南稜テラスが見えて、なんと、まだ順番待ちをしているパーティが複数あった。南稜は人気アトラクションなので、2時間待ちもあるという。



六ルンゼを確か5回懸垂下降し(写真4枚目)、上から見て南稜テラスの右脇の川原状のところを下りた。南稜テラスまで少し登り返す。

南稜テラスから、1度だけ懸垂下降をした。しばらくはクライミングシューズで歩いた。テールリッジの途中で、登山靴に履き替えた。岩が乾いたせい、朝ほどは滑らなかった。しかし、だんだん疲れが出て足が重くなり、ヒョングリの滝も通過し、あと少しで林道に出るところで、気が抜けてしまい、力も気合も入らないまま歩いた。前田さんが須田さんに「そろそろ気を抜いてもいいですか」とふざけて聞いた直後、私はタイムリーかつ派手にすっころんでしまった。軽く打ち付けたひじをさすりつつ、「ついに登ったなあ」という充実感とともに林道を歩き、駐車場に向かった。

(記：岡村)

去年からの因縁の一ノ倉沢南稜。須田リーダーの気遣いで実現し、アドバイスを頂きながら無事下山することができたことはリーダーに感謝です。今回天候に恵まれ、南稜テラスに一番乗りという幸運、メンバーにもケガはなし。という結果的に最高の山行であった。またアプローチが長く、クライミング技術のみでなく、体力、知識、判断力などの総合的に試され、今の自分に足りないもの、今後習得しなければならないことなどの新しい課題もできました。心残り、あと30分下山が早ければ林道歩きしないで、電気バスに乗って駐車場まで楽チン下山できたことでしょうか・・・。

(記：前田)

CT: 谷川岳ロープウェイ駐車場 3:00 - 一ノ倉沢出合 4:00 - 南稜テラス 6:45/7:00 - 終了点 9:55/10:20 - 南稜テラス 13:00/13:20 - 一ノ倉沢出合 16:00/16:20 - 駐車場 17:15